

科目名	日本語・日本文学のためのコンピュータ		
教員名	小木曾 智信		
単位数	2	配当年次	2
		開講時期	2012年度 後期
テーマ・概要			
近年、日本語・日本文学の分野でもコンピュータの利用が盛んになり、研究を進めるうえでコンピュータの知識はいつそう重要度を増しつつある。この授業では、日本語学・日本文学を研究していく上で必要なコンピュータの知識・技術を習得し、今後の研究に活かせるようになることを目指す。内容的には、日本語テキストの処理を行う方法、電子化資料を利用して用例の検索や集計を行う方法が中心となる。			
到達目標			
日本語学・日本文学を研究していく上で必要なコンピュータの知識・技術(テキストエディタ・正規表現・表計算ソフト・文書の構造化)を習得する。			
授業の計画			
次のようなテーマでそれぞれ2回程度の授業を行う。前半は説明を聞いて知識や技術を学ぶことが主となるが、後半では学んだことを活かして実際にレポートを作成することによって方法を身につけることになる。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子化テキストの紹介</li> <li>・テキストデータとテキストエディタ</li> <li>・正規表現の利用</li> <li>・検索ソフトの使い方(全文検索システムひまわり)</li> <li>・表計算ソフトの使い方(Excellによる集計)</li> <li>・レポートの書き方(文書の構造化とWordの使い方)</li> <li>・レポートテーマの検討・調査</li> </ul>			
授業の方法			
実際にコンピュータを使って課題をこなしていくことで知識と技術を身につける演習形式の授業である。前半は、説明を受けての知識・技術を身につけることが中心となる。後半は、各自で設定した課題について調査しレポートとしてまとめていくことが中心となる。			
準備学習等の内容			
授業のWebページで授業内容の確認を行う。 普段利用するパソコンを用いて授業内容の復習を行う。			
成績評価の方法			
出席・レポート・小テスト・授業態度を総合して評価する。			
成績評価の基準			
成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.			
必要な予備知識／先修科目／関連科目			
特になし。			
テキスト			
特定の教科書は使用しない。教材はファイルやWebページの形で提示するほか、必要に応じてプリントを配布する。			
参考書			
授業時に紹介する。			